



人にも自然にもやさしい中野本郷小の子

# 中野本郷

令和5年度 1月号

令和6年1月9日

中野区立中野本郷小学校

校長 福山 広伸

児童数 320名

校舎移転の年、残り3ヶ月を充実した学びの日々に！

校長 福山 広伸

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

多くの卒業生、地域の方々の思い出がたくさん詰まった現校舎とも、令和6年3月末をもってお別れとなります。昭和3年「東京府豊多摩郡本郷尋常小学校」として創立され、木造2階建ての校舎に798名の児童とともに開校したのが現中野本郷小学校です。その後、昭和19年には学童疎開により多くの児童がしばらく学校を離れることになりましたが、中野本郷小の校舎は激しい戦火の中でも焼失を免れ、戦後直ちに授業が再開されました。昭和39年から昭和51年までの間に校舎鉄筋化工事が4期に渡って実施されて、現在の校舎の形がほぼ整いました。その後耐震化工事、校庭芝生化工事などもありましたが、中野本郷小は、開校以来ずっとこの場所、この校舎で常に学びの時を過ごしてきました。現在の地を3年間も離れることは、開校してから初めてとなる中野本郷小の歴史に残る大きな出来事です。

中野本郷小学校の校章は、「蛍雪の功(けいせつのこう)」の古事になって、本郷田園に飛び交う蛍と白一色に埋もれて雪景色となった本郷村の景観をイメージし、蛍を“本”の字にかたどって「本郷の地で勉学に励む子どもたち」を表現したものです。そこには、郷(さと)を愛し、そこに育つ子どもたちの健やかな成長を願いつつ、開校に尽力した当時の地域・関係者の方々の強い思いが込められています。

「蛍雪の功」…中国の古事。貧しい二人の若者がいて、灯の燃料も買えなかったため、一人は蛍を集めて紙袋につめて灯にし、一人は窓からさし入る雪明かりのもとで、共に勉学に励んだことから、苦労を重ねて勉学に励むことの意。



「正しき行によりて他人との平和」「良心の證(証あかし)によりて自己との平和」をもって、日本人たる価値を創造する勇士たること…と初代校長の鈴木八雄先生の言葉が残っています。良識ある行動、道徳的公共的実践力とともに善良な心を育み、他者と友好的関係を築き、自尊感情・自己肯定感を高めて、社会の立派な構成員として力強く生きていく人材を育成することを目標に、中野本郷小の教育活動が行われていたことを伺い知ることができます。更に、開校時の教育概要の記録に、「自学的態度の養成」を目指して、毎週1時間以上の自学自習の時間を設定したと記されています。自己学習能力の育成を図るための「自学自習の時間」は、今で言う各自で取り組む課題探求活動の時間を設定していたということです。現在の学校教育に求められていることを、すでに開校当時から実践されていたことに、驚きを隠せません。未来を見据え、多くの方々の願いと協力で教育実践の歴史を積み重ねてきた中野本郷小学校です。その象徴と言える現校舎に通うのも残り3ヶ月。子どもたちとともに感謝の気持ちをもって、一日一日を大切に、充実した学びの日々を過ごしていきたいと思えます。「何事にも精一杯の努力を重ね、最後までやり通すのだ」と初代校長 鈴木八雄先生が、本郷小の子どもたちに伝えた精神を一言で表現したのが「郷(さと)の魂」です。体育館の前にある「郷の魂」の碑は、3年後の新しい校舎が完成した際、そこに移設していただけることになっています。

## 1月の生活目標 規則正しい生活をしよう

1月の生活目標は「規則正しい生活をしよう」です。それぞれ充実した冬休みを過ごせたことと思えます。休み明けは、「早寝・早起き・朝ご飯」を心掛け、学校生活のリズムを取り戻し、元気にスタートしてほしいと思えます。また、授業の時間には、気持ちを切り替えて学習に取り組めるように、自分で時計を確認し、時間を守って行動できるよう声を掛けていきます。

家庭学習、礼儀についても振り返り、学年のまとめに向けて自分の生活を見直す時期です。学校では、1月に「あいさつ週間」を実施します。気持ちのよい挨拶は、お互いの関係をよりよくします。元気のよい挨拶から一日を始めましょう。

ご家庭でも子どもたちが規則正しい生活を送れるようご支援よろしくお願いいたします。

(生活指導部)